

本上遺跡

〔第2次調査〕

埋蔵文化財調査報告

2017

伊奈町教育委員会

序

この度、伊奈町埋蔵文化財調査報告書第3集として、本上遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

本上遺跡は伊奈町の中部にあり、縄文時代晩期に属する遺跡として資料紹介がされており、学史的には著名な遺跡です。なお、『伊奈町史 通史編I 原始・古代・中世・近世』のなかでは「氷川神社裏遺跡」という名称で記載されています。平成24年度には本教育委員会が発掘調査を行い、そのときの出土遺物の一部を、平成27年度に町指定文化財へ指定いたしました。

本上遺跡地内で住宅建設に伴う土地造成計画が立ち上がり、現状保存が困難となったため、記録保存の措置を講ずることとなり、平成27年度に本教育委員会が発掘調査を実施し、その成果として本報告書を刊行いたしました。

発掘調査の結果、縄文時代中期から集落がつくられ始め、縄文時代晩期まで続いたことがわかりました。また、厚い遺物包含層からは大量の土器片とともに、祭祀に使われたとされている土偶やミニチュア土器・石棒・石剣、装飾品として用いられた耳飾や大珠など、多種多様の遺物が出土しました。これら出土遺物の量と種類、周辺の現状地形から本上遺跡が環状盛土と呼ばれる遺構を持つ遺跡であることが再確認されました。出土した土偶や大珠などの遺物は伊奈町の貴重な財産です。出土した遺物など今回の発掘調査の成果から周辺地域における原始の集落形態や祭祀のあり方など多くのことが明らかになるものと期待され、現在も当時の地形に近い状態で現存している本上遺跡を保存・活用し、後世へ伝えていくことは、私たちに課された責任もあると考えます。

最後になりましたが、貴重な埋蔵文化財の記録保存事業に御理解と御協力を賜り、現地での調査から本報告書刊行までご協力いただいた土地所有者様、関係各位の皆様に心から感謝申し上げ、本書の序とします。

平成29年3月

伊奈町教育委員会
教育長 高瀬 浩

例 言

1. 本調査報告書は埼玉県北足立郡伊奈町本町に所在する本上遺跡（第2次調査）の発掘調査報告書である。
2. この発掘調査は、分譲住宅建設に伴うものであり、発掘調査から調査報告書刊行までの一切の業務は、開発事業主である山岸工業株式会社から伊奈町教育委員会が委託を受けて実施し、すべての費用は山岸工業株式会社の御負担によるものである。
3. 発掘調査及び整理作業は以下の日程を行った。
確認調査 平成27年6月25・26・27日、
7月2・3日
発掘調査 平成27年8月1日～
平成28年1月29日
整理作業 平成28年5月9日～
平成29年3月27日
4. この発掘調査の主体者および担当者は以下のとおりである。

- 主体者 伊奈町教育委員会
担当者 安達薫広、小杉秀幸
5. 本書における基準点測量は、株式会社オカマツエンジニアリングに委託した。
 6. 出土品の整理及び写真撮影、本書の執筆・編集は安達、小杉が行った。
 7. 土製品、石製品の実測及び観察表の作成は、早稲田大学考古学研究室に依頼した。参加者は以下のとおりである。
井上早季、岩見拓、隈元道厚、佐藤亮太、比留間絢香、小林昌司、鈴木宏和
 8. 本書では報告することができなかった遺物について、未報告の調査で出土した遺物とともに、改めて報告する。
 9. 出土遺物は伊奈町教育委員会が保管している。
 10. 発掘調査及び本書の作成にあたり、高橋龍三郎氏、細田勝氏をはじめ関係機関の皆様から御教示・御協力を賜った。

凡 例

1. 各挿図に記した方位はすべて座標北を記す。
2. 調査区で使用したグリッドは、2 m×2 mのグリッドを設定した。
3. グリッドの名称は、西から東方向に算用数字（1・2・3…）を付した。
4. 本書の本文、挿図、表中に記した遺構の略号は以下の通りである。
S J = 穴住居跡
S K = 土壙 P = ピット・柱穴
5. 本書における挿図の縮尺は、下記の通りである。例外的なものについては、個別に示した。
遺構図 全体図 1/50
住居 1/60 土壙 1/60

遺物実測図

土製品

土偶・土版・顔面装飾付土器・パレット
形土器・ミニチュア土器・筒状土製品・
土錘・耳飾 1/3

石製品

石剣（第24図7のみ1/4）・独鉛石・石版・
大珠・玉・管玉・小型磨製石斧 1/3

6. 遺構断面図に標記した水準数値は、海拔標高を表す。単位はmである。
7. 本書に使用した地形図は、「埼玉県の地形」1/650,000（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）、国土地理院発行1/25,000（「久喜」・「鴻巣」・「岩槻」・「上尾」）、「伊奈町全図7」1/2500（平成22年発行）を使用して、編集した。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
I 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経緯	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	1
II 遺跡の立地と環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	3
III 遺跡の概要	5
IV 遺構と遺物	9
1. 縄文時代の遺構と遺物	9
(1) 住居跡	9
(2) 土壙	21
(3) 遺構外出土遺物	22
V 調査のまとめ	22
1. 調査の成果	22
写真図版	
抄録	

挿 図 目 次

第1図 伊奈町の位置	
第2図 埼玉県の地形	
第3図 周辺の遺跡	
第4図 基本土層図	
第5図 遺跡の範囲	
第6図 グリッド概念図	
第7図 調査区全体図	
第8図 第1・4・6・7号住居跡遺構図	
第9図 第1・7号住居跡、第2・10号土壙遺構図	
第10図 第1号住居跡遺構図	
第11図 第1号住居跡出土土器	
第12図 第4号住居跡遺構図	
第13図 第4号住居跡出土土器	
第14図 第4号住居跡出土土製品、石製品	

第15図 第6号住居跡遺構図	
第16図 第7号住居跡遺構図	
第17図 第6・7号住居跡出土土器	
第18図 第2・3号住居跡遺構図（1）	
第19図 第2・3号住居跡遺構図（2）	
第20図 第3号住居跡出土土器	
第21図 第3号住居跡出土土製品、石製品	
第22図 第5号住居跡遺構図（1）	
第23図 第5号住居跡遺構図（2）	
第24図 第5号住居跡出土土製品、石製品	
第25図 第8・14・15号土壙遺構図	
第26図 第1号土壙出土土製品	
第27図 遺構外出土土製品、石製品（1）	
第28図 遺構外出土土製品、石製品（2）	

表 目 次

第1表 周辺の遺跡	
第2表 特殊遺物（土製品）一覧	

第3表 特殊遺物（石製品）一覧	
第4表 石器一覧	

写 真 図 版 目 次

図版1	1 調査区全景（北半部、東から）	図版12	1 第3号住居跡 出土骨遺存体
	2 調査区全景（北半部、西から）		2 第4号住居跡 出土土器①
図版2	1 調査区全景（南半部、西から）		3 第4号住居跡 出土土器②
	2 第1号住居跡 完掘状況（北西から）		4 第4号住居跡 出土石器
図版3	1 第2号住居跡 完掘状況（南西から）		5 第4号住居跡 出土土器③、土製品、 石製品
	2 第3号住居跡 完掘状況（南東から）		6 第4号住居跡 出土石製品
	3 第3号住居跡 完掘状況（南西から）	図版13	1 第5号住居跡 出土石器
図版4	1 第4号住居跡 完掘状況（南西から）		2 第5号住居跡 出土土石製品
	2 第4号住居跡 完掘状況（南東から）		3 第5号住居跡 出土石製品
	3 第4号住居跡 炉跡覆土堆積状況 (南から)		4 第6号住居跡、第7号住居跡 出土 土器
図版5	1 第4号住居跡 炉跡完掘状況（南か ら）		5 第1号土壤 出土土製品、 第14号土壤 出土石器
	2 第4号住居跡 遺物出土状況		6 第13号土壤 出土動物骨遺存体、 第14号土壤 出土動物齒遺存体
	3 第5号住居跡 完掘状況（南西から）	図版14	1 遺構外出土土器①
図版6	1 第5号住居跡 炉跡1、2完掘状況 (南から)		2 遺構外出土土器②
	2 第5号住居跡 炉跡4確認状況 及び遺物（石版）出土状況		3 遺構外出土石器①
	3 第6号住居跡 完掘状況（南西から）		4 遺構外出土石器②
図版7	1 第7号住居跡 完掘状況（南から）		5 遺構外出土石器③
	2 第7号住居跡 炉跡完掘状況（北西 から）		6 遺構外出土石器④
	3 第1号土壤 完掘状況（西から）	図版15	1 遺構外出土石器⑤
図版8	1 第8号土壤 完掘状況（北から）		2 遺構外出土土製品 土偶①
	2 第13号土壤 完掘状況（北から）		3 遺構外出土土製品 土偶②
	3 第14号土壤 完掘状況（北東から）		4 遺構外出土土製品 土偶③
図版9	1 第15号土壤 完掘状況（西から）		5 遺構外出土土製品 耳飾①
	2 遺構外出土遺物（9区）		6 遺構外出土土製品 耳飾②
	3 遺構外出土遺物（20区）	図版16	1 遺構外出土土製品 耳飾③
図版10	1 遺構外出土遺物（11区）		2 遺構外出土土製品 土版
	2 遺構外出土遺物（12区）		3 遺構外出土土製品 ミニチュア土器
	3 遺構外出土遺物（54区）		4 遺構外出土土製品 顔面装飾付土器、 バレット形土器、筒状土製品、不明 土製品
図版11	1 第1号住居跡 出土土器		5 遺構外出土石製品①
	2 第1号住居跡 出土石器		6 遺構外出土石製品②
	3 第3号住居跡 出土土器		
	4 第3号住居跡 出土石器		
	5 第3号住居跡 出土土製品		
	6 第3号住居跡 出土土製品、石製品		

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経緯

本上遺跡は、環状盛土遺構を中心とする縄文時代の集落跡であり、周知の埋蔵文化財包蔵地として埼玉県遺跡台帳にNa18-028として登録されている。これまでに2度の発掘調査が行われているが、昭和56年に行われた発掘調査は未報告であり、詳細は不明である。また、平成25年に伊奈町教育委員会による発掘調査が行われ、記録保存の措置がとられている。

この度、分譲住宅建築に先立ち試掘調査を行った結果、大量の縄文土器及び現地表下25cmから縄文時代の環状盛土遺構が確認されたため、業者と

の協議の結果、現状保存ができない状況となり、やむを得ず発掘調査による記録保存を行うこととなった。

文化財保護法第93条の2第1項の規程に基づき、工事主体者である山岸工業株式会社より平成27年6月19日付けで発掘の届出が提出された。この届出に対して埼玉県教育委員会から平成27年7月28日付け教生文第4-447号で発掘調査の実施が指示された。

調査は、伊奈町教育委員会の直営で実施した。

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

発掘調査は、平成27年8月1日から平成28年1月29日まで実施した。調査地点は北足立郡伊奈町本町二丁目176番、対象面積は251m²で、発掘調査面積は240m²である。

平成27年7月下旬、本上遺跡発掘調査に関わる事務手続きを行った。調査区を前半部と後半部に分け、8月上旬から重機による前半部の表土除去作業を行い、人力による遺構確認作業後、順次土層断面図、平面図等の作成を行い、10月下旬に基準点測量を実施した。11月下旬に、遺構の分布状況を把握するため、全景写真（前半部）の撮影を行った。また、重機による前半部の埋戻し及び後

半部の表土除去作業も行った。12月上旬から人力による遺構確認作業を行い、順次土層断面図、平面図等の作成を行い、平成28年1月下旬に遺構の分布状況を把握するため、調査区の全景写真（後半部）を撮影した。事務処理等を含めたすべての作業を平成28年1月29日に終了した。

調査の結果、縄文時代後期から晩期と推定される竪穴住居跡7軒、土壙15基などを検出した。縄文時代後期から晩期の土器・石器・土製品・石製品がコンテナ90箱分出土した。縄文時代後期から晩期の環状盛土遺構であることが判明し、様々な種類の遺物から集落の一端が明らかとなった。

(2) 整理・報告書の作成

整理・報告書作成は、平成28年5月9日から平成29年3月27日まで実施した。平成28年5月上旬から、出土遺物の洗浄・注記作業を始め、11月下旬まで断続的に遺物の接合・復元作業を行った。これらと並行して、発掘調査時に測量した遺構実測図の整理と第二原図および全体図の作成を行った。

平成29年1月上旬より遺物写真撮影、遺物写真図版の編集作業を行った。作業が終了した段階で、遺構図面類・出土遺物を分類・整理し、収納作業を行った。

12月中旬に印刷会社を決定し、平成29年2月に入稿した。2回の校正を経て、平成29年3月27日に報告書を刊行した。

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

本上遺跡の所在する伊奈町は、埼玉県東部平地のはば中央に位置している。町の大部分は大宮台地上にあり、東側に綾瀬川、西側に原市沼川が流れ、沖積低地を形成している。

首都中心部から約40kmの位置にあり、町境は上尾市、桶川市、蓮田市に接している。町内には国道及び主要鉄道の駅はないが、上越・東北新幹線の軌道を利用した埼玉新都市交通（ニューシャトル）の駅が5駅設置されている。主要地方道の整備や区画整理事業などによる宅地化が進み、人口が増加している。それに伴い、緑地や農耕地が急激に減ってきていている。

町内における最高点は北西端で標高20m、南東が低く、最も低い場所で標高8.4mを測る。台地の南部では標高10mの等高線が台地の縁となっている。



第1図 伊奈町の位置



第2図 埼玉県の地形(1/650000)

2. 歴史的環境

本上遺跡（1）の周辺には、多くの遺跡が存在する。近年では、埼玉県教育委員会や埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって多くの遺跡で発掘調査が行われてきた。

綾瀬川流域は、縄文時代前期の貝塚が集中する地域であり、大針貝塚（9）、小貝戸貝塚（12）、関山貝塚（24）、黒浜貝塚（27）が著名である。

伊奈町域において、旧石器時代の遺物が集中している主な遺跡は、向原遺跡（2）で薄片の石器が見つかっているほか、北遺跡（10）で尖頭器、原遺跡（8）で細石器・細石核、久保山遺跡（13）でナイフ形石器などが出土している。

縄文時代では草創期の遺物は見つかっていないものの、早期には戸崎前遺跡（4）で炉穴2基が検出されており、撫糸文土器・条痕文土器を中心とする土器群が出土している。前期になると戸崎前遺跡と谷畠遺跡（7）で住居跡が検出されている。小貝戸貝塚・大針貝塚では、貝塚が残されている。大針貝塚では学術調査が行われており、2軒の住居跡と地点貝塚が発見されている。これらの貝塚は、白岡市や蓮田市の綾瀬川流域の遺跡と密接な関係が考えられる。中期の遺跡としては、北遺跡で72軒、原遺跡で100軒前後の住居跡が検出されている。両遺跡とも未発掘部分があるため今後も住居跡数が増加するものと思われる。他にも中期の集落と考えられる遺跡が多くある。後期になると遺跡の数は激減するが、本上遺跡で晚期まで続く環状盛土遺構が形成されている。他に戸崎前遺跡で住居跡が見つかっている。晚期の遺構としては、大山遺跡（15）で埋甕が見つかっている。遺物としては、伊奈氏屋敷跡（16）でまとまった土器群が出土している。周辺では、正福院貝塚（19）、久台遺跡（32）、雅楽谷遺跡（37）、前田遺跡（38）、清左衛門遺跡（39）で後晩期の遺構や大量の遺物が確認されている。他にも第1表遺跡

番号（17）～（23）、（25）、（26）、（28）～（39）の遺跡で後晩期の遺構や遺物が確認されている。また、後晩期の遺跡は斜面や低地部に存在する場合も多く、発見するのが難しい。町内でも今後の調査により遺跡の数が増える可能性もある。

弥生時代の遺跡では、分布調査で土器片が採集されているが、遺構は見つかっていない。

古墳時代になると再び遺跡の数が増え、薬師堂根遺跡（3）、戸崎前遺跡、向原遺跡、大山遺跡、小室天神前遺跡（14）、諏訪久保遺跡（11）で住居跡や方形周溝墓が検出されている。同じ綾瀬川流域の蓮田市域では、荒川附遺跡（25）等で住居跡が検出されている。

奈良時代の遺跡は戸崎前遺跡で8世紀中葉以降の住居跡が4軒検出され、大山遺跡でも7軒の住居跡が検出されている。

平安時代では、向原遺跡で4軒、薬師堂根遺跡で1軒、戸崎前遺跡で6軒検出されている。大山遺跡では、23軒の住居跡が検出されているほか、20基の製鉄炉が検出されており、大規模製鉄遺跡であることが判っている。また、上尾市域を含む周辺の遺跡で多くの炭焼窯が検出されており。大山遺跡との関連が伺える。

中世では、相野谷遺跡（5）で柱穴群とともに中世瓦が出土している。戸崎前遺跡では土橋を伴う一辺70mの堀跡が検出されており、出土遺物により、13世紀末から14世紀中頃と推定される。八幡谷遺跡（6）、薬師堂根遺跡では、墓壙、建物跡が検出されている。また、伊奈氏屋敷跡で「障子堀」が検出されている。

近世になると、徳川家康の江戸城入府に伴い、伊奈備前守忠次が代官頭となり、この地に陣屋を築いた。現在はこの陣屋が県指定史跡となっており、良好な堀や土塁などの遺構が残っている。



第3図 地図周辺の通路

III. 遺跡の概要

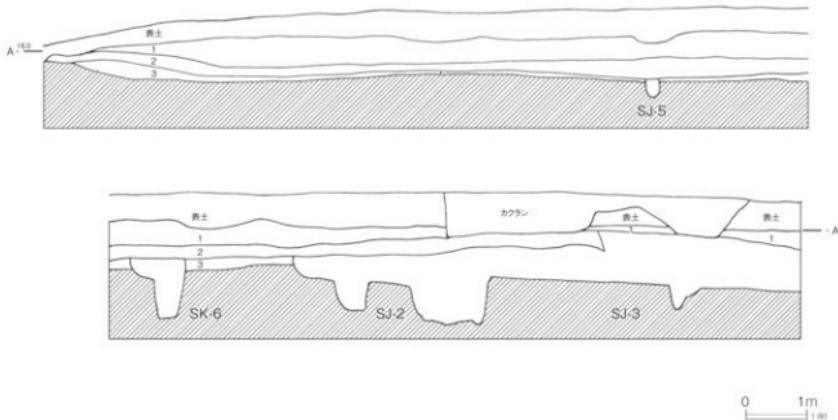
本上遺跡は、北東から入り込んだ小支谷の最奥部南側に立地しており、遺跡内の湧水点から小支谷へ湧水が流れ込んでいたようだ。標高は約16mで低地部とは4mの比高差がある。遺跡の範囲は、氷川神社境内にある湧水点を中心に直径約180mの範囲に環状盛土が形成されている。

これまでの調査歴としては、昭和56年に中央土地区画整理事業が進められる中で、氷川神社の北側と西側の道路部分を発掘調査しており、コンテナ約200箱分の遺物が出土している。調査結果については未報告で、遺構については定かではないが、出土遺物は縄文時代後期から晩期の土器が主体となり、土偶や耳飾も出土している。ほかに氷川神社裏遺跡の遺物として、『金鏡』第22号に発

表されている（細田1980）。

平成25年には、図書館の南東側における宅地造成に伴う発掘調査がされており、コンテナ約70箱分の遺物が出土している。縄文時代後期から晩期の遺物が主であり、土偶・大珠なども出土している。遺構については、堅穴住居跡3軒、土壙4基が検出されている。

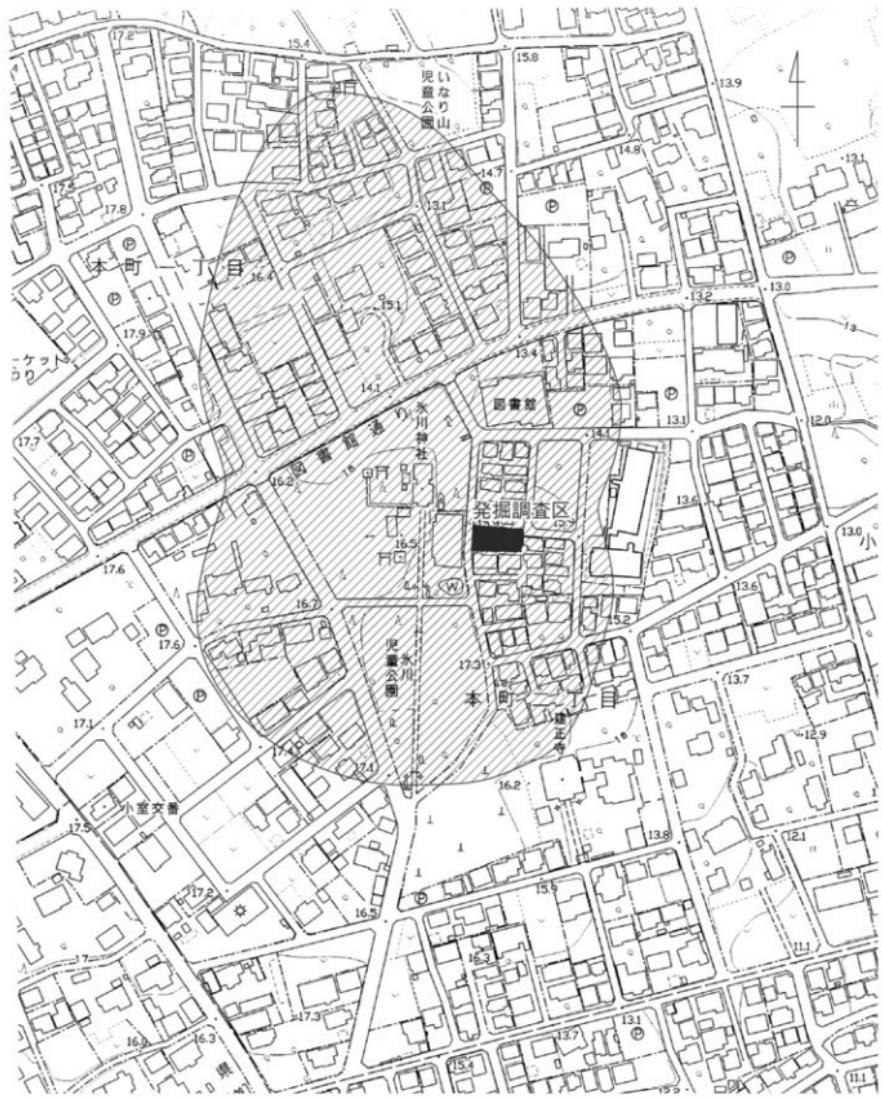
現在、遺跡内低地部には図書館が建っているが、かつては、ここに池があった。図書館建設の際は遺構などを確認することはできなかったが、調査技術の進歩や低地部における発掘調査例の増加などから、図書館を含む本上遺跡の低地部においても遺構・遺物が見つかることが考えられる。



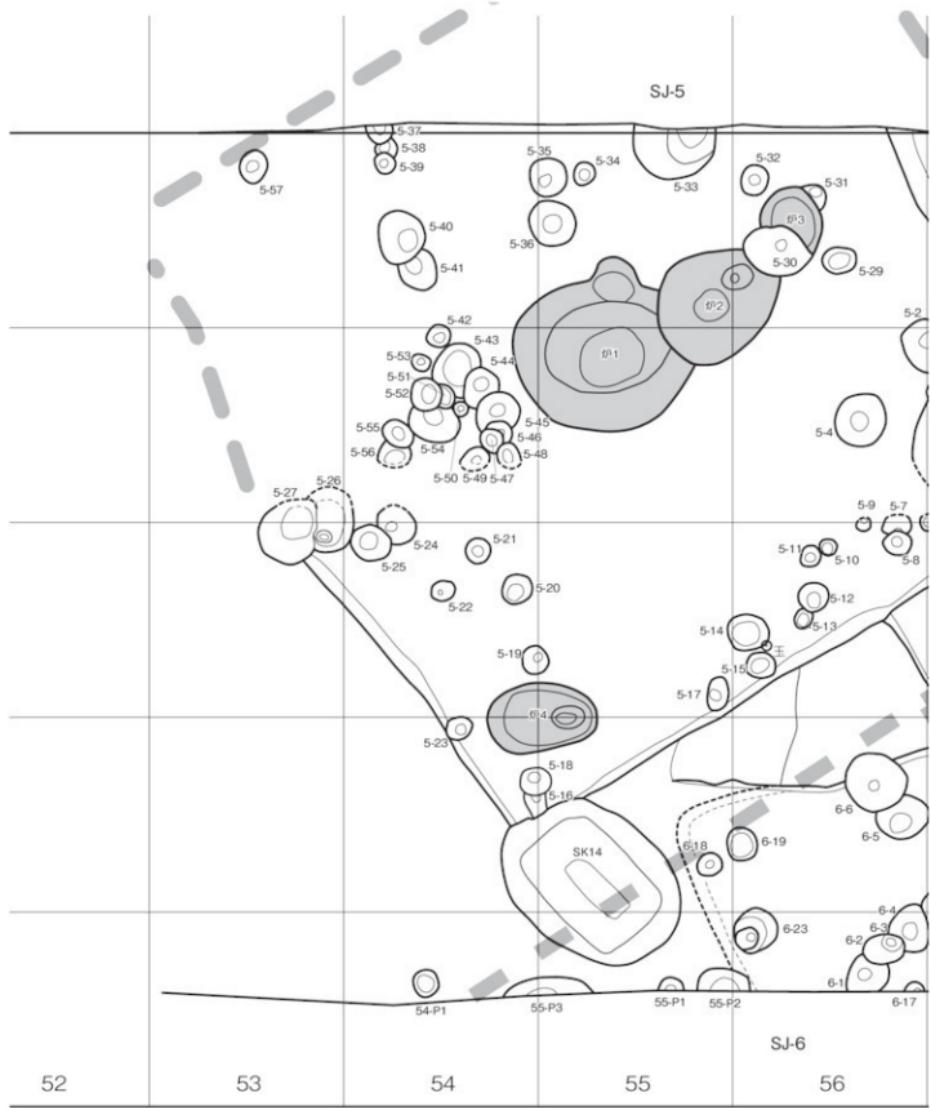
調査区北前の層の堆積状況を測量した

- 1 黒色土 ローム粒子微量に含み、ややわらかい（場所により骨片が混ざる。下部は土器が多い）。
- 2 矢張色土 ロームブロック（3mm）細颗粒。ローム粒子少量、晚上粒子微量を含み、ややしまっている。
- 3 茶色土 ロームブロック（10~30mm）非常に多量。ローム粒子少量、晚上粒子微量、炭化物粒子微量を含み、しまっている。

第4図 基本土層図

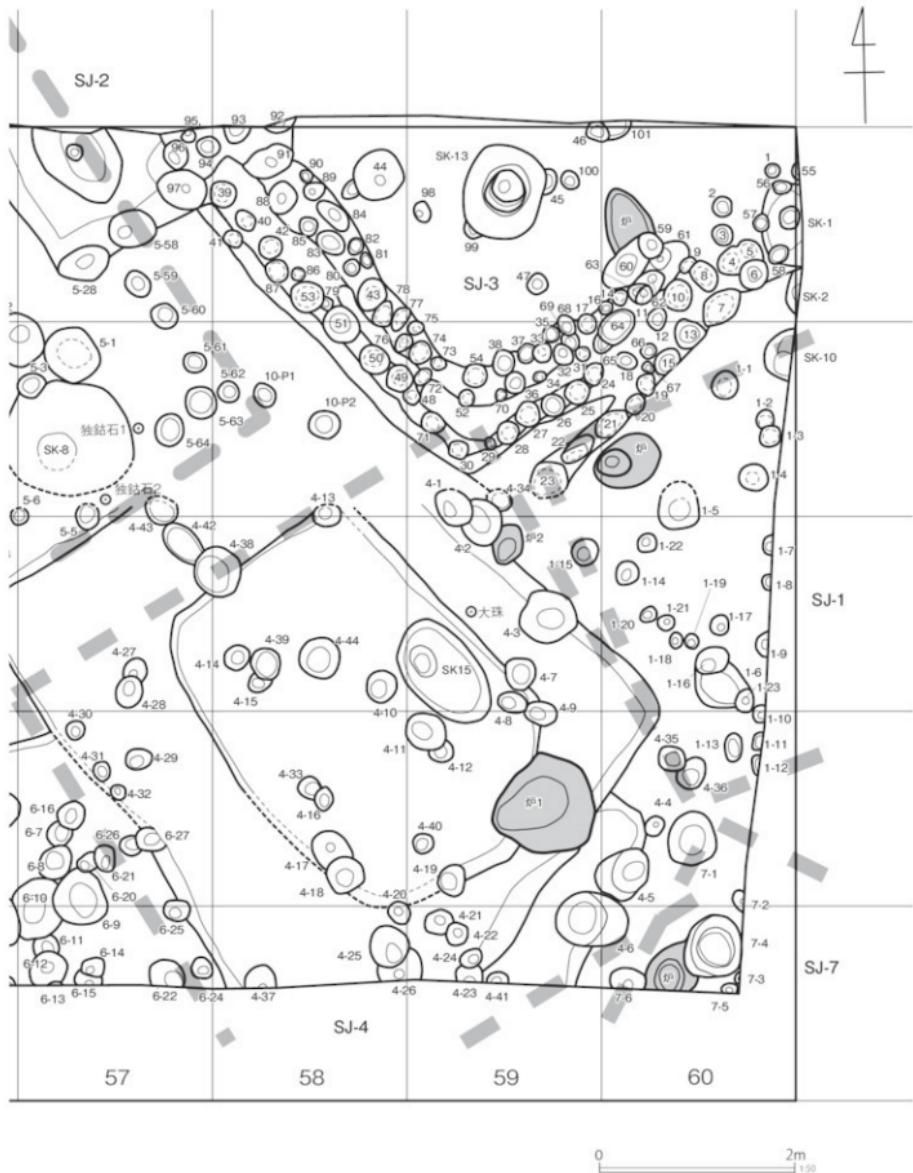


第5図 遺跡の範囲



A	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	A'
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24		
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36		
37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48		
49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60		

第6図 グリッド概念図



第7図 調査区全体図(1/50)

IV 遺構と遺物

1. 繩文時代の遺構と遺物

(1) 住居跡

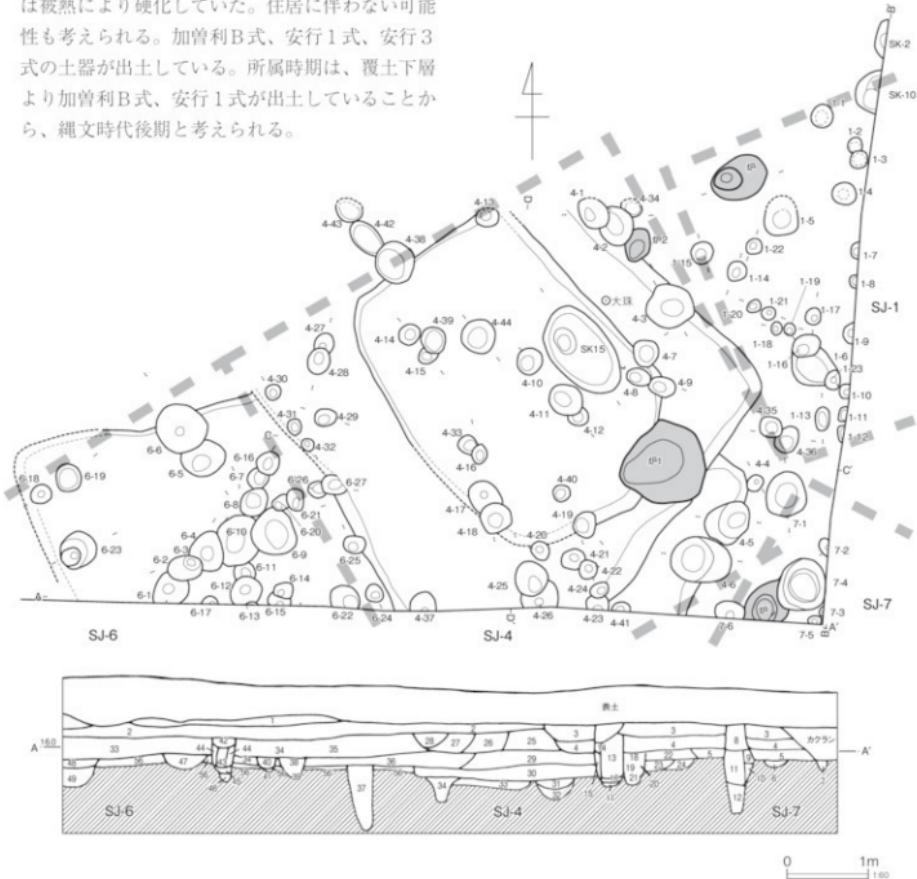
第1号住居跡（第8～10図、図版2-2）

第1号住居跡は、調査区東端の12、23・24、35・36、48グリッドに位置している。住居の掘込は確認できなかった。他の住居跡との重複が激しく、住居の大部分が調査区外に続いているため、規模および平面形態は不明である。また、24グリッド南西に炉跡を検出した。平面形は楕円形で、底面は被熱により硬化していた。住居に伴わない可能性も考えられる。加曾利B式、安行1式、安行3式の土器が出土している。所属時期は、覆土下層より加曾利B式、安行1式が出土していることから、縄文時代後期と考えられる。

第1号住居跡出土遺物（第11図、図版11-1、2）

1～2は加曾利B式である。3～7は安行1式期である。8は安行3a式である。9～11は安行3c式である。12は安行3c～3d式である。

磨石・石鎌各1点、砥石2点が出土している。



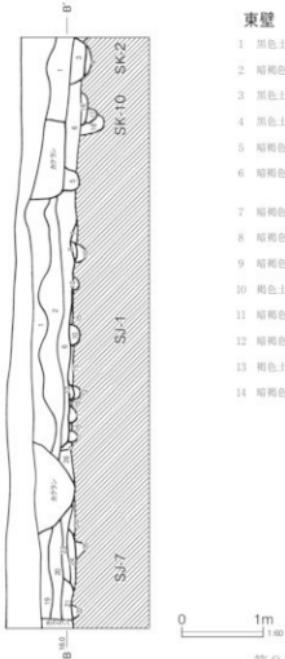
第8図 第1・4・6・7号住居跡遺構図

南壁 (SJ-1, 4, 6, 7)

- 1 黒色土 ローム粒子微量を含み、やややわらかい。場所によって骨格が混ざる。下土は土器が多い。(基本土壁上層と同じ)
- 2 嫌褐色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。(基本土壁上層と同じ)
- 3 黒色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子少量、焼土ブロック(3mm)微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 4 嫌褐色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子少量、焼土ブロック(3~10mm)微量、焼土粒子微量を含み、やややわらかく。(東壁28層と同じ)
- 5 嫌褐色土 ローム粒子微量、焼土ブロック(3mm)微量、焼土粒子非常に多量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。(東壁29層と同じ)
- 6 暗褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 7 嫌褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 8 黑色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子多量、焼土ブロック微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 9 黑色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子少量、焼土ブロック(3mm)微量、焼土粒子微量を含み、やややわらかい。
- 10 黑色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 11 黑色土 ロームブロック(10~20mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
- 12 黑色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややらかい。
- 13 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量、焼土ブロック(3mm)微量、焼土粒子微量を含み、やややわらかい。
- 14 嫌褐色土 ローム粒子微量を含み、やややわらかく。
- 15 嫌褐色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 16 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 17 暗褐色土 ロームブロック(3~10mm)多量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 18 嫌褐色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子微量、焼土ブロック(3mm)微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 19 嫌褐色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 20 嫌褐色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 21 嫌褐色土 ロームブロック(3~10mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 22 嫌褐色土 ロームブロック(3~10mm)微量、ローム粒子多量、焼土ブロック(20mm)微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 23 嫌褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量を含み、やややわらかく。

東壁 (SJ-1, 7, SK-2, SK-10)

- 1 黒色土 ローム粒子微量を含み、やややわらかい。(場所によって骨格を含み、下土に土器が多い)(土壁上層と同じ)
- 2 嫌褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子多量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 3 黑色土 ロームブロック(2mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 4 黑色土 ロームブロック(10mm)微量、ローム粒子多量を含み、ややしまっている。
- 5 嫌褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 6 嫌褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 7 嫌褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 8 嫌褐色土 ローム粒子少量、焼土ブロック(3mm)微量、焼土粒子微量を含み、やややわらかい。
- 9 嫌褐色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子少量化合物を含み、やややわらかい。
- 10 暗褐色土 ロームブロック(10~20mm)多量、ローム粒子少量を含み、ややしまっている。
- 11 嫌褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 12 嫌褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 13 暗褐色土 ロームブロック(3~20mm)多量、ローム粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 14 嫌褐色土 ロームブロック(3~20mm)多量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。(SJ-1のP13と同じ)
- 15 嫌褐色土 ロームブロック(10~50mm)多量、ローム粒子少量、焼土ブロック(5~10mm)微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 16 嫌褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子少量を含み、ややしまっている。
- 17 嫌褐色土 ロームブロック(20mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 18 暗褐色土 ロームブロック(5~30mm)多量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 19 黑色土 ロームブロック(3~10mm)微量、ローム粒子少量、焼土ブロック(3~5mm)微量、焼土粒子少量を含み、ややらかく。(南壁3層)
- 20 嫌褐色土 ロームブロック(3~10mm)微量、ローム粒子少量、焼土ブロック(3~5mm)微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。(南壁4層)
- 21 嫌褐色土 ローム粒子微量、焼土ブロック(3~10mm)微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 22 黑色土 ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややらかい。
- 23 嫌褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子多量、焼土粒子炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 24 嫌褐色土 ロームブロック(3~10mm)微量、ローム粒子少量、焼土ブロック(5~10mm)微量、焼土粒子微量を含み、やややわらかく。
- 25 嫌褐色土 ロームブロック(10~20mm)少量、ローム粒子少量を含み、ややらかく。
- 26 嫌褐色土 ロームブロック(3~10mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量を含み、しまっている。(基本土壁上層と同じ)



第9図 第1・7号住居跡、第2・10号土壙遺構図

S J - 1



第10図 第1号住居跡構造図



第11図 第1号住居跡出土土器

第4号住居跡（第8・12図、図版4-1～3、5-1）

第4号住居跡は、調査区南東の22・23、33～36、45～48、57～59グリッドに位置している。住居の掘込は部分的に確認した。他の住居跡との重複が激しいため、平面形態は不明である。また、47グリッド東に炉跡を検出した。底面は被熱により硬化していた。住居の覆土掘削中から確認され、住居の床検出面では炉跡の底面がわずかに残る程度であったことから、本住居に伴わない可能性が高い。35グリッド中央より大珠が出土している。

堀之内2式から安行3b式までの土器が出土している。出土量は加曾利B式から安行1式が多い。加曾利B式終わりの土器が出土していないことから、断続的に利用されていた可能性がある。

本住居跡の所属時期は、縄文時代後期の加曾利B式期と考えられる。

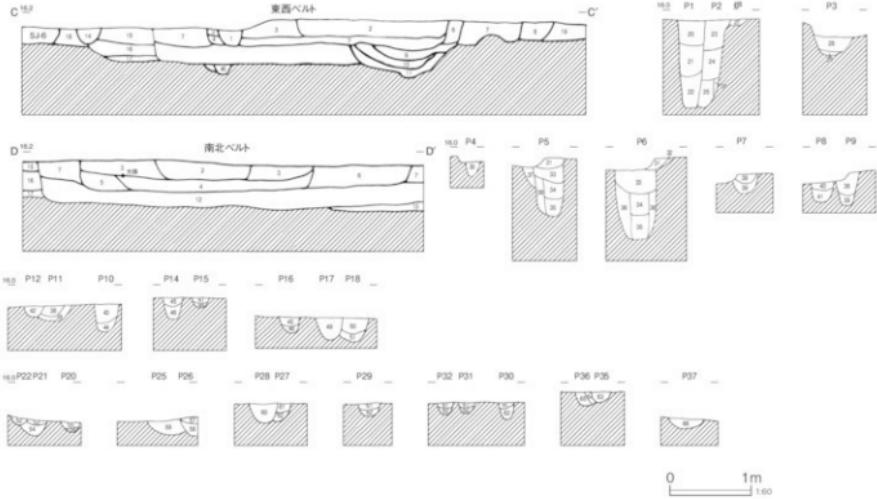
第4号住居跡出土遺物（第13・14図、図版5-2、12-2～6）

図版12-2は、安行2式の深鉢の胴下半部と推定される。残存高16.6cm、胴部最大径19.7cm、底径3.0cmである。横位の沈線と弧線文が施され、貼付文が配される。

1～12は加曾利B式である。13・14は加曾利B式の粗製である。

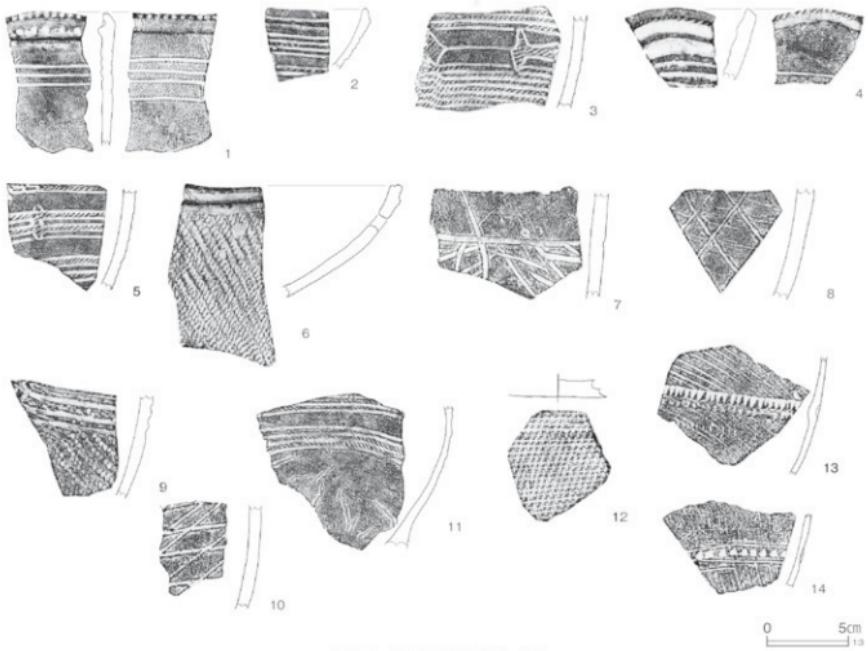
ミニチュア土器3点、耳飾2点が出土している。

磨製石斧・大珠各1点、石剣・砥石各2点、磨石4点が出土している。

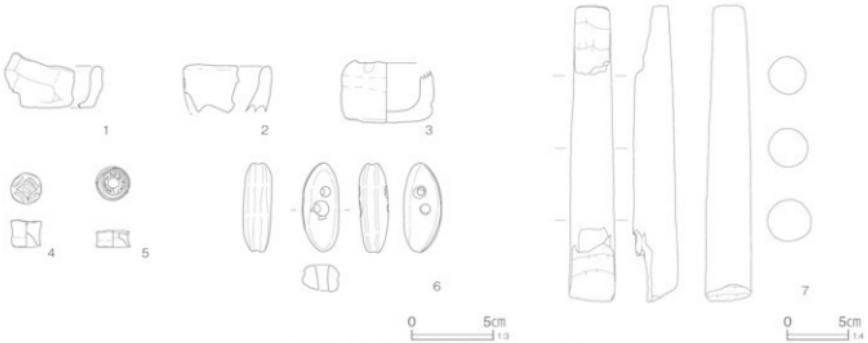


第12図 第4号住居跡遺構図

- 1 矮褐色土 ローム粒子微量、焼土ブロック(10mm)微量、焼土粒子多量、炭化物粒子微量
微量含み、やししまっている。骨片を極微量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック(5mm)微量量、ローム粒子少量、焼土ブロック(3mm)微量、焼土
粒子微量含み、やししまっている。骨片を極微量含む。
- 3 矮褐色土 ロームブロック(5mm)微量量、ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量
微量含み、やししまっている。
- 4 黑色土 ローム粒子微量、焼土ブロック(5mm)微量量、焼土粒子多量、炭化物ブロッ
ク(20mm)、炭化物粒子微量含み、やししまっている。
- 5 矮褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子多量含み、やししまっている。
- 6 黑色土 ローム粒子微量、焼土粒子多量含み、やししまっている。
- 7 矮褐色土 積分無微量含み、しまっている。
- 8 矮褐色土 ロームブロック(10mm)微量量、ローム粒子少量、焼土粒子微量微量、炭化物粒子
微量含み、やししまっている。
- 9 灰褐色土 ロームブロック(5mm)微量量、ローム粒子微量、焼土ブロック(3~30mm)微量、
焼土粒子多量含み、やしわらかい。骨片を微量含み、サクラ土としている。
(サクラ土)
- 10 赤褐色土 烧土ブロック(3~30mm)微量、焼土粒子非常に多量を含み、やしわら
かい。サクラ土としている。
- 11 棕褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、焼土粒子微量含み、やしわらかい。
- 12 棕褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、焼土粒子微量含み、しまっている。
- 13 矮褐色土 ロームブロック(5mm)微量量、ローム粒子微量、焼土粒子微量微量、炭化物粒子
微量含み、しまっている。
- 14 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量微量含み、
やししまっている。
- 15 矮褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子微量微量、炭化物粒子微量微量含み、やしわらかい。
- 16 矮褐色土 ロームブロック(20~30mm)多量、ローム粒子微量、焼土粒子微量微量、炭化物
粒子微量微量含み、しまっている。
- 17 黑色土 ロームブロック(5~20mm)多量、ローム粒子微量含み、しまっている。
- 18 灰褐色土 ロームブロック(5~30mm)微量量、ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物粒子
微量含み、しまっている。
- 19 矮褐色土 焼土粒子微量含み、やししまっている。
- 20 黑色土 焼土粒子微量、焼土ブロック(5mm)微量量、
- 21 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量微量含み、や
しわらかい。
- 22 黑色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量含み、やしわらかい。
- 23 黑色土 ロームブロック(5mm)微量量、焼土ブロック(10mm)微量量含み、焼土粒子
微量含み、炭化物粒子微量含み、やししまっている。
- 24 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量含み、や
しわらかい。
- 25 黑色土 ロームブロック(3~5mm)少量、ローム粒子少量含み、やしわらかい。
- 26 黑色土 ロームブロック(5~10mm)多量、ローム粒子微量含み、やししまっている。
- 27 矮褐色土 ローム粒子微量、焼土ブロック(5mm)微量量、
- 28 黑色土 ロームブロック(3~10mm)微量量、ローム粒子少量、焼土粒子、炭化物粒子
微量含み、やしわらかい。
- 29 矮褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子微量含み、やししまっている。
- 30 矮褐色土 ロームブロック(10mm)微量量、ローム粒子微量含み、やししまっている。
- 31 黑色土 ロームブロック(3~10mm)微量量、ローム粒子少量、焼土ブロック(3mm)微量
微量含み、やししまっている。
- 32 矮褐色土 ロームブロック(3~5mm)少量、ローム粒子微量含み、やししまっている。
- 33 矮褐色土 ロームブロック(3~10mm)微量量、ローム粒子少量、焼土粒子、炭化物粒子
微量含み、やししまっている。
- 34 矮褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子微量含み、やしわらかい。
- 35 矮褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子少量含み、やしわらかい。
- 36 矮褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子微量含み、やししまっている。
- 37 矮褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子微量含み、やししまっている。
- 38 矮褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子少量含み、やししまっている。
- 39 矮褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子微量含み、やしわらかい。
- 40 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子微量含み、やしわらかい。
- 41 矮褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子微量含み、やしわらかい。
- 42 矮褐色土 ロームブロック(3~10mm)微量量、ローム粒子少量含み、やししまっている。
- 43 黑色土 ロームブロック(3mm)微量量、焼土粒子微量含み、やしわらかい。
- 44 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子少量、焼土粒子微量含み、や
しわらかい。
- 45 灰褐色土 ロームブロック(10~10mm)微量量、ローム粒子少量、焼土粒子微量含み、や
ししまっている。
- 46 灰褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量量、ローム粒子微量含み、しまっている。
- 47 灰褐色土 ロームブロック(5mm)微量量、ローム粒子微量、焼土粒子微量含み、しま
っている。
- 48 灰褐色土 ロームブロック(20mm)非常に多量、ローム粒子微量含み、非常にしま
っている。
- 49 灰褐色土 ロームブロック(3mm)微量量、ローム粒子微量含み、しまっている。
- 50 灰褐色土 ローム粒子微量、炭化物粒子微量微量含み、しまっている。
- 51 灰褐色土 ロームブロック(10~20mm)多量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量微量含み、
非常にしまっている。
- 52 灰褐色土 ロームブロック(5~10mm)多量、ローム粒子微量含み、やしわらかい。
- 53 灰褐色土 ロームブロック(5~10mm)少量、ローム粒子微量含み、やしわらかい。
- 54 灰褐色土 ローム粒子微量、炭化物粒子微量微量含み、やしわらかい。
- 55 黑色土 ロームブロック(10~20mm)多量、ローム粒子微量含み、非常によくしま
っている。
- 56 黑色土 ロームブロック(10mm)多量、ローム粒子微量含み、しまっている。
- 57 灰褐色土 ロームブロック(10~20mm)少量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量微量含み、
非常にしまっている。
- 58 灰褐色土 ロームブロック(10~20mm)少量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量微量含み、
非常にしまっている。
- 59 灰褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量量、ローム粒子微量含み、やししま
っている。
- 60 灰褐色土 ロームブロック(5~10mm)多量、ローム粒子微量含み、やしわらかい。
- 61 灰褐色土 ロームブロック(5~20mm)多量、ローム粒子微量含み、しまっている。
- 62 灰褐色土 ロームブロック(5~20mm)多量含み、しまっている。
- 63 黑色土 ロームブロック(3mm)微量量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量微量含み、や
しわらかい。
- 64 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量量、ローム粒子微量含み、やしわらかい。
- 65 灰褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量量、ローム粒子微量含み、やししま
っている。
- 66 灰褐色土 ロームブロック(5~20mm)微量量、ローム粒子微量、焼土粒子微量微量、炭化物粒子
微量微量含み、しまっている。



第13図 第4号住居跡出土土器



第14図 第4号住居跡出土土製品、石製品

第6号住居跡（第8・15図、図版6-3）

第6号住居跡は、調査区中央から南端の43～45、54～57グリッドに位置している。住居の掘込は確認できなかった。他の住居跡との重複が激しく、住居の大部分が調査区外に続いているため、規模および平面形態は不明である。焼土が確認された

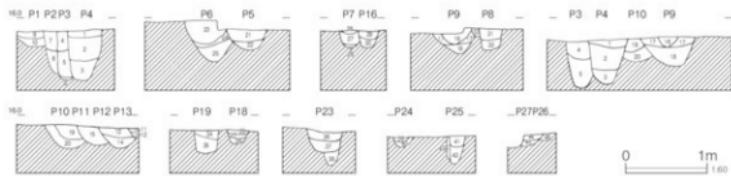
が、ピット上部のみに堆積していたことから、他の住居から投げ込まれたものと思われる。

本住居の所属時期は不明である。

第6号住居跡出土遺物（第17図、図版13-4）

1は安行1式である。

S J - 6



第15図 第6号住居跡構造図

- 1 堀褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量、焼土ブロック(3mm)少量、焼土粒子多量を含み、やややわらかい。
- 2 褐色土 ロームブロック(3~10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 3 堀褐色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 4 堀褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 5 堀褐色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量を含み、やややわらかい。
- 6 堀褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 7 堀褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 8 堀褐色土 ロームブロック(5~5mm)微量、ローム粒子微量を含み、やややわらかい。
- 9 黒色土 ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 10 黑色土 ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 11 黑色土 ローム粒子微量、焼土粒子・炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 12 黑色土 ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、やややわらかい。
- 13 黑色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 14 黑色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 15 黑色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
- 16 黑色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 17 堀褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 18 黑色土 ロームブロック(5~20mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 19 堀褐色土 ローム粒子微量、焼土ブロック(3mm)微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 20 堀褐色土 ロームブロック(10~30mm)非常に多量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 21 堀褐色土 ロームブロック(5~20mm)多量、ローム粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 22 堀褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 23 堀褐色土 ロームブロック(20~30mm)微量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 24 堀褐色土 ローム粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 25 堀褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 26 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子少量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 27 黑色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量を含み、やややわらかい。
- 28 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 29 黑色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 30 堀褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、多量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 31 黑色土 ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 32 黑色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 33 堀褐色土 ローム粒子少量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 34 堀褐色土 ロームブロック(10~20mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 35 堀褐色土 ローム粒子微量、焼土粒子・炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
- 36 堀褐色土 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
- 37 堀褐色土 ロームブロック(5~10mm)非常に多量、ローム粒子微量を含み、しまっていている。
- 38 堀褐色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量を含み、やややわらかい。
- 39 堀褐色土 ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 40 堀褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量を含み、やややわらかい。
- 41 堀褐色土 ロームブロック(10~20mm)微量、ローム粒子多量を含み、やややわらかい。
- 42 堀褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 43 堀褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 44 堀褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 45 堀褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量を含み、しまっている。
- 46 堀褐色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。

第7号住居跡（第8・9・16図、図版7-1・2）

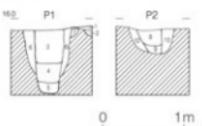
第7号住居跡は、調査区南東端の48、59・60グリッドに位置している。住居の掘込は確認できなかった。住居の大部分が調査区外に続いているため、規模および平面形態は不明である。また、60グリッド北西やや中央寄りに炉跡と思われる遺構を検出した。平面形は梢円形で、底面は被熱により硬化していた。住居に伴わない可能性が考えられる。

本住居跡の所属時期は不明である。

第7号住居跡出土遺物（第17図、図版13-4）

2は後期安行式である。

S J - 7



第16図 第7号住居跡構造図

- 1 黒色土 ロームブロック(3~10mm)少量(焼けている)、焼土ブロック(3~10mm)少量、焼土粒子多量を含み、ややしまっている。
- 2 堀褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、焼けている(3), 烧土粒子微量を含み、やややわらかい。サラサ。
- 3 黑色土 ロームブロック(3~10mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
- 4 黑色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、やややわらかい。
- 5 黑色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子少量を含み、やややわらかい。
- 6 黑色土 ロームブロック(3~10mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量を含み、やややわらかい。
- 7 黑色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子微量を含み、やややわらかい。
- 8 黑色土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量を含み、やややわらかい。
- 9 黑色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子少量を含み、ややしまっている。
- 10 黑色土 ロームブロック(3~20mm)多量、ローム粒子少量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。

第17図 第6・7号住居跡出土土器



0 5cm

第2号住居跡（第18図、図版3-1）

第2号住居跡は、調査区北端の8・9グリッドに位置している。住居の大部分が調査区外に続いているため、規模および平面形態は不明である。炉跡は検出できなかった。第3号住居跡の張り出し部の可能性がある。

本住居跡の所属時期は、縄文時代後期の安行1式期と考えられる。

第3号住居跡（第18・19図、図版3-2・3）

第3号住居跡は、調査区北端の9～12、22～24グリッドに位置している。柱穴が列状に少なくとも2列並んでいることが確認されたが、住居跡の北側が調査区外のため、建替に伴うものか増築に伴うものかは不明である。また、12グリッド西に炉跡を検出した。掘り込みは浅く、底面は被熱による硬化がわずかに見られた。また、焼土の堆積が薄いことから、本住居の主要な炉として使用されたものではないと考えられる。加曾利B式から安行3式までの土器が出土しているが、覆土下層

より、加曾利B式から安行2式が出土していることから、所属時期は縄文時代後期と考えられる。

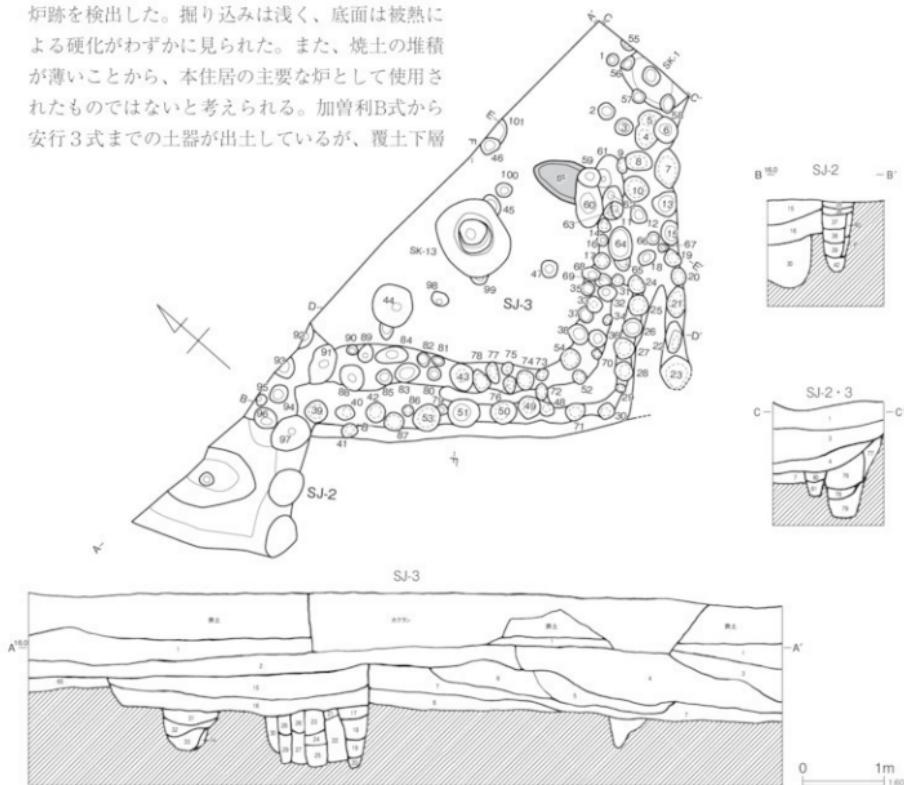
第3号住居跡出土遺物（第20・21図、図版11-3～6、12-1）

1～4は加曾利B式である。5～10は安行1式である。11は安行2式である。12～14は安行3a式である。15は安行3b式である。16は安行3c式である。

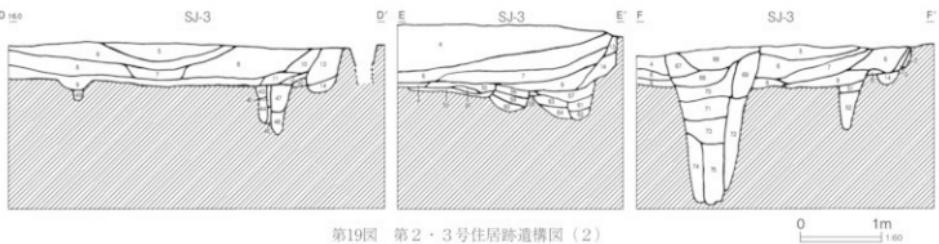
土偶・土版各1点、筒状土製品2点、土錐3点、耳飾4点が出土している。

石鋸・磨石・小型磨製石斧各1点、石剣2点が出土している。

動物のものと推定される骨遺存体が出土している。同定は行っていない。

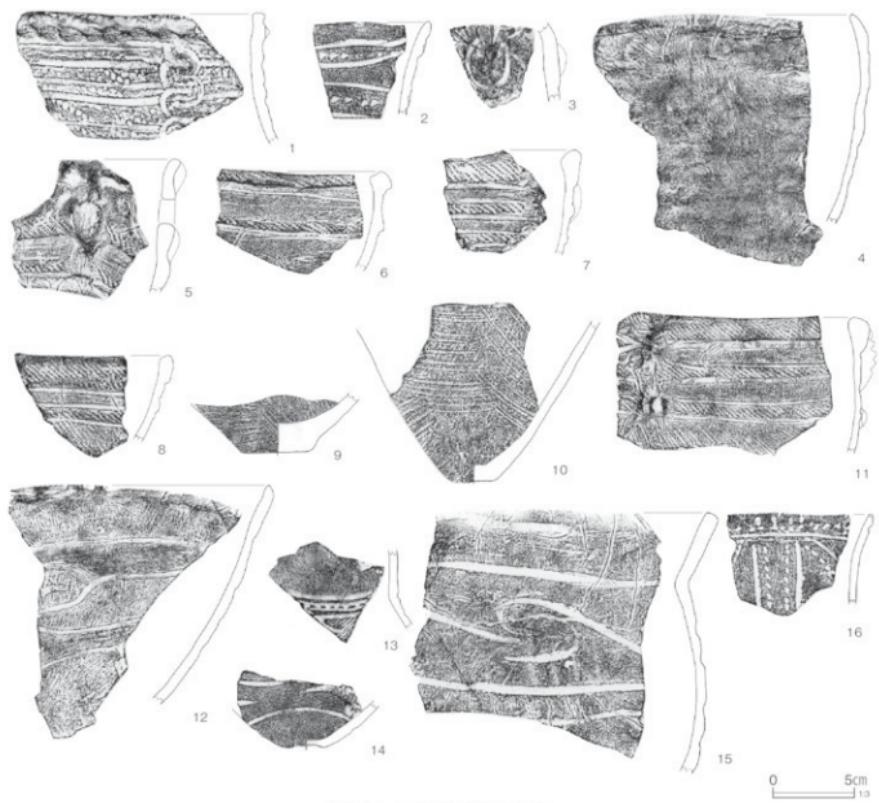


第18図 第2・3号住居跡遺構図（1）

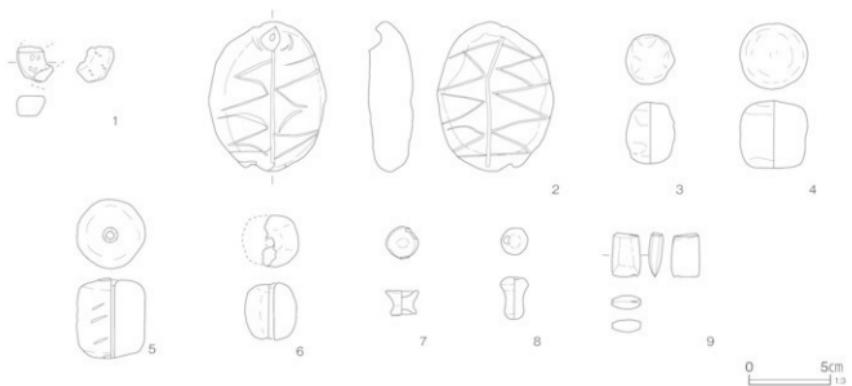


第19図 第2・3号住居跡遺構図(2)

S J-2·3



第20図 第3号住居跡出土土器



第21図 第3号住居跡出土土製品、石製品

第5号住居跡（第22・23図、図版5-3、6-1・2）

第5号住居跡は、調査区中央の5~9、17~22、29~33、42・43グリッドに位置している。住居の掘込はわずかに確認できた。炉および柱穴の位置から方形を呈すると思われる。

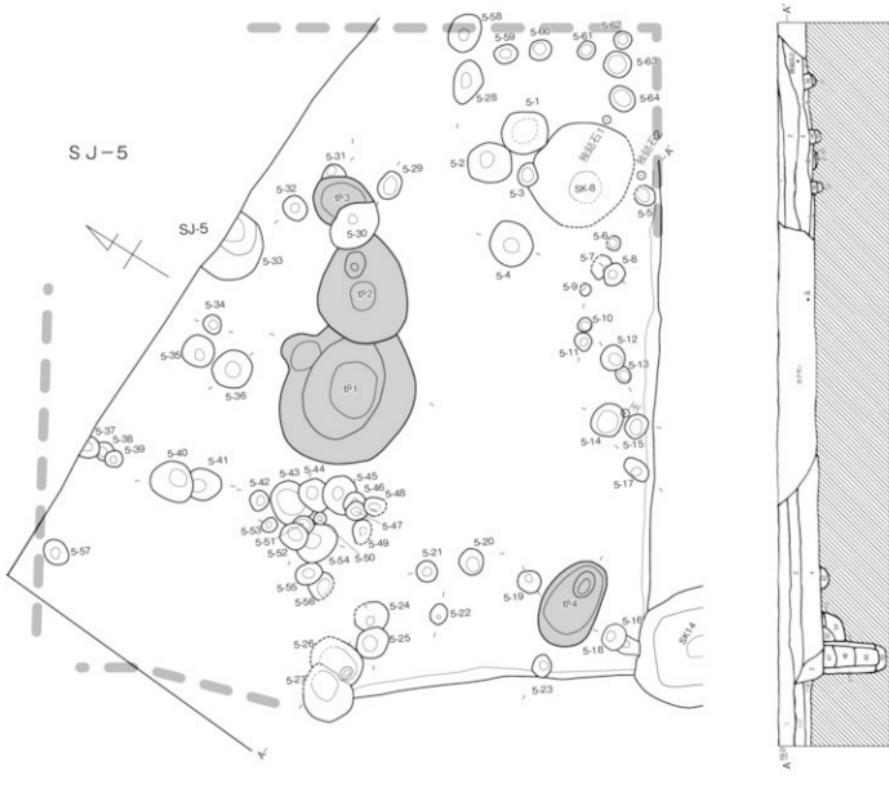
炉跡は住居跡中央に2基、中央や北東寄りに1基、南端に1基、検出した。中央の2基は掘込が深く、焼土の堆積も厚いことから、本住居の主要な炉として使用されていたと思われる。南端の1基は、平面形は梢円形で、中央の炉に比べると掘

込は浅い。本住居は、中央の炉および南端の炉を開む柱穴の配置から、中央の炉2基を伴う大型住居であったと考えられる。安行3式の土器が出土していることから、本住居跡の所属時期は、縄文時代晚期と考えられる。

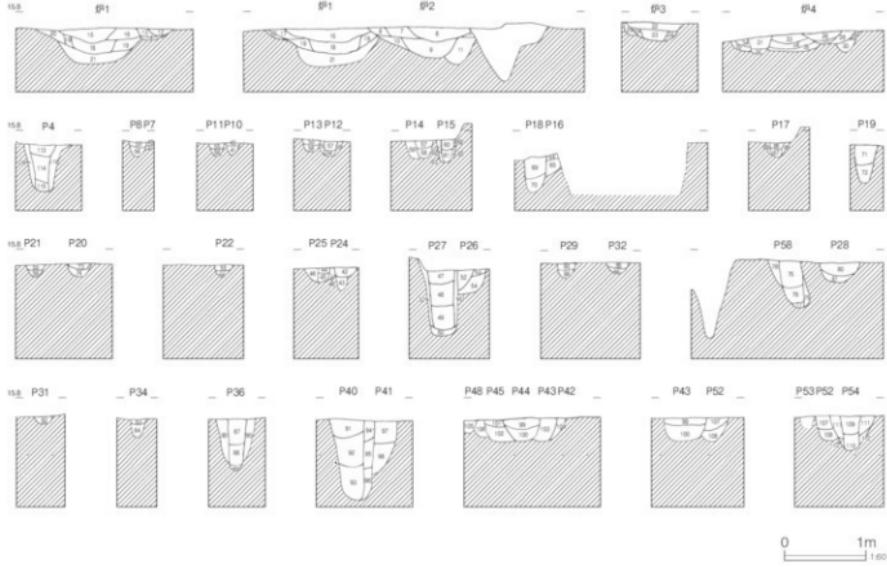
第5号住居跡出土遺物（第24図、図版13-1~3）

土版・耳飾各1点が出土している。

独鉛石・石版・玉各1点、磨石2点が出土している。

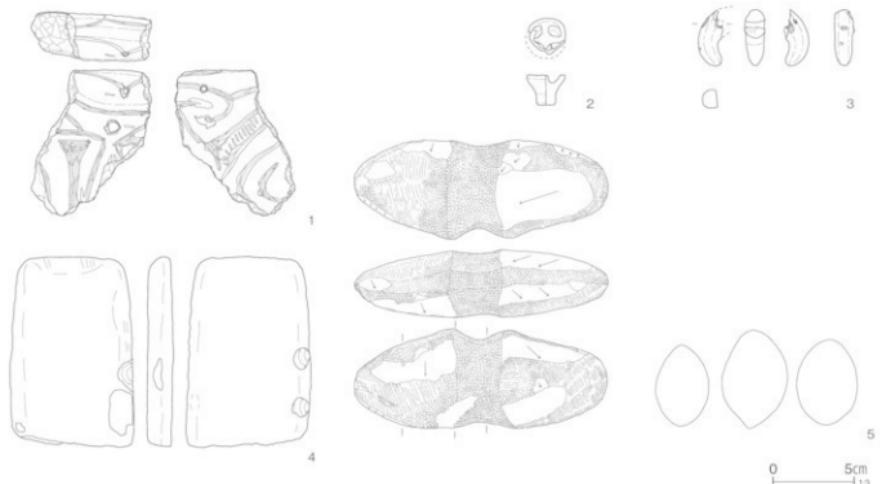


第22図 第5号住居跡遺構図（1）



第23図 第5号住居跡遺構図（2）

- 1 黒色土 ローム粒子微量に含み、ややわらかい。(場所により骨片が混ざる。下半は土器が多い。(茎土上層と同じ))
- 2 黒色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化物粒子微量を含み、ややわらかい。
- 3 堀周辺土 土器微量を含み、ややわらかい。
- 4 黒色土 ロームブロック(5mm)微量、炭化物粒子少量を含み、ややわらかい。
- 5 褐色土 ロームブロック(5~20mm)多量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 6 黑色土 ローム粒子微量、焼土ブロック(5mm)微量、焼土粒子多量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。(骨粉微量に含む)
- 7 黒色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量、焼土ブロック(3mm)微量、焼土粒子微量を含み、ややわらかい。
- 8 黒色土 ロームブロック(5mm)微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 9 堀周辺土 ロームブロック(5mm)微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 10 堀周辺土 ロームブロック(10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、しまっている。
- 11 黑色土 ロームブロック(10~20mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややわらかい。
- 12 黑色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、非常にしまっている。
- 13 堀周辺土 ローム粒子微量、焼土ブロック(5mm)微量、焼土粒子少量、炭化物粒子微量を含み、しまっている。
- 14 堀周辂土 ローム粒子微量を含み、しまっている。
- 15 黑色土 ローム粒子微量、焼土ブロック(5~10mm)微量、焼土粒子多量、炭化物ブロック(5mm)微量を含み、ややわらかい。(骨粉微量に含む)
- 16 黑色土 ロームブロック(5mm)微量、焼土ブロック(5~10mm)微量、焼土粒子多量を含み、ややしまっている。
- 17 堀周辺土 ロームブロック(10~20mm)非常に多量、ローム粒子微量を含み、非常にしまっている。
- 18 黑色土 焼土ブロック(5~10mm)非常に多量、焼土粒子少量を含み、ややわらかい。(サラサ、灰鉄)
- 19 褐色土 ロームブロック(10~50mm)、焼けている(多量)、焼土粒子少量を含み、ややわらかい。
- 20 堀周辺土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量を含み、しまっている。
- 21 黑色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややわらかい。(サラサ、灰鉄)
- 22 黑色土 ロームブロック(5~20mm)、焼けている(多量)、ローム粒子微量、焼土ブロック(5~50mm)多量、焼土粒子微量を含み、ややわらかい。(骨粉微量に含む)
- 23 堀周辺土 ロームブロック(5~10mm)非常に多量、ローム粒子微量、焼土ブロック(5~10mm)微量を含み、しまっている。(サラサ、灰鉄)
- 24 堀周辺土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 25 黑色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややしまっている。
- 26 黒色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、炭化物ブロック(5~10mm)微量、炭化物粒子多量(上部に炭化物あり)を含み、ややわらかい。
- 27 堀周辺土 ややわらかい。
- 28 堀周辺土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子・炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 29 堀周辺土 ロームブロック(10mm)多量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 30 堀周辺土 ロームブロック(10mm)少量、ローム粒子微量を含み、ややわらかい。
- 31 黑色土 ロームブロック(3~5, 10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 32 堀周辺土 ロームブロック(10~20mm)多量、ローム粒子・焼土粒子微微量を含み、ややしまっている。
- 33 黑色土 ロームブロック(3~10mm)微量、ローム粒子非常に多量、焼土ブロック(3mm)微量を含み、ややわらかい。
- 34 堀周辺土 ロームブロック(10~20mm)少量、ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 35 堀周辺土 ロームブロック(10~20mm)多量、ローム粒子・炭化物粒子微量を含み、しまっている。
- 36 堀周辺土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややわらかい。
- 37 黑色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややわらかい。
- 38 堀周辺土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子微量を含み、ややわらかい。
- 39 黑色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややわらかい。
- 40 堀周辺土 ロームブロック(3mm)微量、ローム粒子微量を含み、しまっている。
- 41 堀周辺土 ロームブロック(5~5mm)多量、ローム粒子微量を含み、しまっている。
- 42 堀周辺土 ロームブロック(10~20mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややわらかい。
- 43 堀周辺土 ロームブロック(10~20mm)微量、ローム粒子微量を含み、しまっている。
- 44 黑色土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子・炭化物粒子微量を含み、ややわらかい。
- 45 黑色土 ロームブロック(5~10mm)多量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 46 堀周辺土 ロームブロック(10~20mm)多量、ローム粒子微量、炭化物粒子微量を含み、しまっている。
- 47 堀周辺土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量を含み、しまっている。
- 48 堀周辺土 ロームブロック(10mm)微量、ローム粒子微量、焼土粒子・炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 49 堀周辺土 ロームブロック(3~10mm)少量、ローム粒子微量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 50 堀周辺土 ロームブロック(10~20mm)微量、ローム粒子微量を含み、非常にしまっていない。
- 51 堀周辺土 ロームブロック(5~10mm)多量、ローム粒子微量、炭化物粒子微量を含み、しまっていない。
- 52 堀周辺土 ロームブロック(5~10mm)微量、ローム粒子微量を含み、焼土粒子・炭化物粒子微量を含み、ややわらかい。



第24図 第5号住居跡出土土製品、石製品

(2) 土壙

第1号土壙 (第18図、図版7-3)

第1号土壙は、調査区北東端の12グリッドに位置している。平面形はおそらく円形を呈するものと推定される。規模は長軸0.87m、短軸0.72m、深さ1.08mである。安行3式の土器が出土している。
第1号出土遺物 (第26図、図版13-5)

土版が1点出土している。

第8号土壙 (第25図、図版8-1)

第8号土壙は、調査区北寄りの20・21グリッドに位置している。平面形は円形を呈している。規模は軸1.36m、深さ0.51mである。安行3a式の土器が出土している。

遺構の所属時期は、縄文時代晩期と思われる。

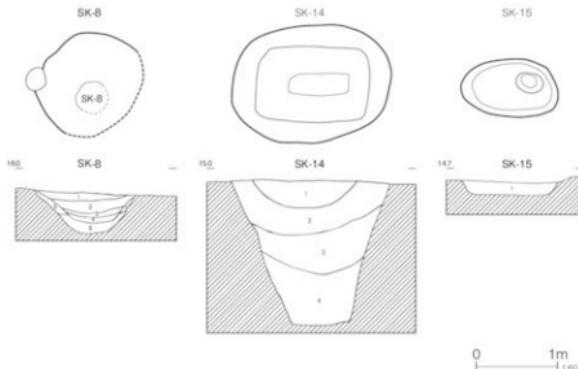
第13号土壙 (第18図、図版8-2)

第13号土壙は、調査区北東寄りの11グリッドに位置している。平面形は楕円形を呈する。規模は長軸1.02m、短軸0.93m、深さ1.92mである。安行3a式の土器が出土している。

遺構の所属時期は、縄文時代晩期と思われる。

第13号土壙出土動物骨遺存体 (図版13-6)

動物のものと推定される骨遺存体が出土している。同定は行っていない。



第25図 第8・14・15号土壙遺構図

第14号土壙 (第25図、図版8-3)

第14号土壙は、調査区南端の42・43、54・55グリッドに位置している。平面形は上端で楕円形を呈している。規模は長軸1.89m、短軸1.47mである。また、中ほどから底部まで長方形を呈しており、長辺1.41m、短辺0.93mである。深さは1.8mである。縄文時代後期から晩期の土器がわずかに出土している。

遺構の所属時期は、縄文時代後期と思われる。

第14号土壙出土遺物 (図版13-5)

石器1点が出土している。

第14号土壙出土動物骨遺存体 (図版13-6)

草食動物の骨と推定される骨遺存体が出土している。同定は行っていない。

第15号土壙 (第25図、図版9-1)

第15号土壙は、調査区34・35、47グリッドに位置している。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸1.2m、短軸0.69m、深さ0.18mである。

遺構の所属時期は、出土遺物がないため、不明である。

SK-8

- 1 黒色土 ロームブロック(5mm)微量、ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化物粒子微量を含み、ややしまっている。
- 2 黒色土 ローム粒子多量、焼土ブロック(10mm)微量、焼土粒子多量、炭化物粒子少量を含み、ややわらかい。(サリガラシしている。骨片を極微量含む)
- 3 黒色土 焼土ブロック(5~20mm)微量、焼土粒子多量、炭化物粒子少量を含み、ややわらかい。(サリガラシしている。骨片を極微量含む)
- 4 嘴褐色土 ロームブロック(20~30mm)微量、ローム粒子多量、焼土ブロック(10mm)微量、焼土粒子少量、炭化物粒子微量を含み、やわらかい。(サリガラシ)
- 5 嘴褐色土 ロームブロック(20~30mm)微量、ローム粒子微量を含み、ややしまっている。
- 6 黑色土 ロームブロック(20~50mm)微量、ロームブロック(20~50mm, 100mm)多量を含み、しまっている。(サリガラシ)

SK-14

- 1 嘴褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子微量を含み、しまっている。
- 2 黑色土 ローム粒子微量を含み、ややわらかい。
- 3 嘴褐色土 ロームブロック(3~5mm)微量、ローム粒子少量を含み、ややわらかい。
- 4 黑色土 ロームブロック(30~100mm)微量、ローム粒子微量を含み、やわらかい。

SK-15

- 1 黑色土 ロームブロック(5~30mm)微量、ローム粒子微量を含み、しまっている。



第26図 第1号土壙出土土製品

(3) 遺構外出土遺物(第27～28図、図版9、10、14～16、第2～3表)

大量の土器片が出土したが、器形が復元できた土器は2個体である。図版14-1は、安行3c式の小型深鉢で5単位の波状口縁をなす。高さ16.0cm、口径14.2cm、底径4.1cmである。波頂部に粘土紐を巻き付け、指による押圧を加える。図版14-2は、安行3a～3b式の壺型土器の胴部と推定される。残存高8.7cm、胴部最大径17.6cm、底径6.5cmである。そろばんの珠のような器形で、胴部の最も張り出す部分を2条の沈線が巡る。

土製品は次のとおりである。土偶は頭部や肩部など15点が出土している。第27図1は、みみずく土偶で、現存高10.7cmと大型である。耳栓を装着している。耳飾は耳栓状・漏斗状など16点が出土している。第28図12は、透かしと流麗な印刻により複雑で曲線的な文様を描く。表面は横方向に研磨が施される。他に、顔面装飾付土器・バレット形土器・ミニチュア土器・筒状土製品・不明土製品各1点、土版9点が出土している。

V 調査のまとめ

1. 調査の成果

今回の発掘調査区について、縄文時代後期の加曾利B式期から晩期の安行3d式期にかけて形成されたと考えられる。ただし、安行2式期の遺物の出土量は、他の型式に比べると、少量である。また、包含層には、炉跡と思われる焼土の固まりや土器がまとまって出土する地点、骨片が混ざる部分があるなど、包含層中にも遺構があった可能性は非常に高い。また、今回の発掘調査区西側(=1～3、13～15、25～27、37～39、49～51グリッド)では、盛土中及びローム面より遺構は検出されず、出土遺物の量も調査区東側に比べ、少量であった。一方、調査区東側(=上記以外のグリッド)の盛土及びローム面では、遺構が複雑

石製品は次のとおりである。玉類は2点出土している。第28図17はヒスイ製の玉である。中央に表面径4mm、裏面径3mmの穿孔をもち、表面より穿孔したものと推定される。独鉛石は1点出土している。第28図25は、全体に丁寧な研磨が施され、両端部はハマグリ刃状を呈す。抉り部には敲打痕が顯著に残る。定角式の小型磨製石斧が3点出土している。第28図20は、裾広がりの形態を呈し、刃部は両面から丁寧に研磨され、直刃風に調整される。第28図21は、先端部及び刃部を綺麗に磨き出す。両面共に丁寧な研磨が施される。他に、石版1点、石剣9点が出土している。

特殊遺物について、土製品は第2表に、石製品は第3表に、それぞれ遺構内出土のものと合わせてまとめた。

石器は砥石・軽石製品各4点、磨製石斧3点、凹石5点、磨石27点、石鎌11点、石錐1点が出土している。石器については、第4表にまとめた。

に重複しており、出土遺物の量も非常に多量であった。このことから、今回の調査区は環状盛土遺構内縁部にかかる部分であると推定される。

最後に、特記すべき出土遺物について、土偶・土版・耳飾・大珠が挙げられる。これらの遺物は、儀礼や祭祀が繰り返し行われ、当該遺跡が地域の拠点的な集落であったことを証明する物証の一つと言える。

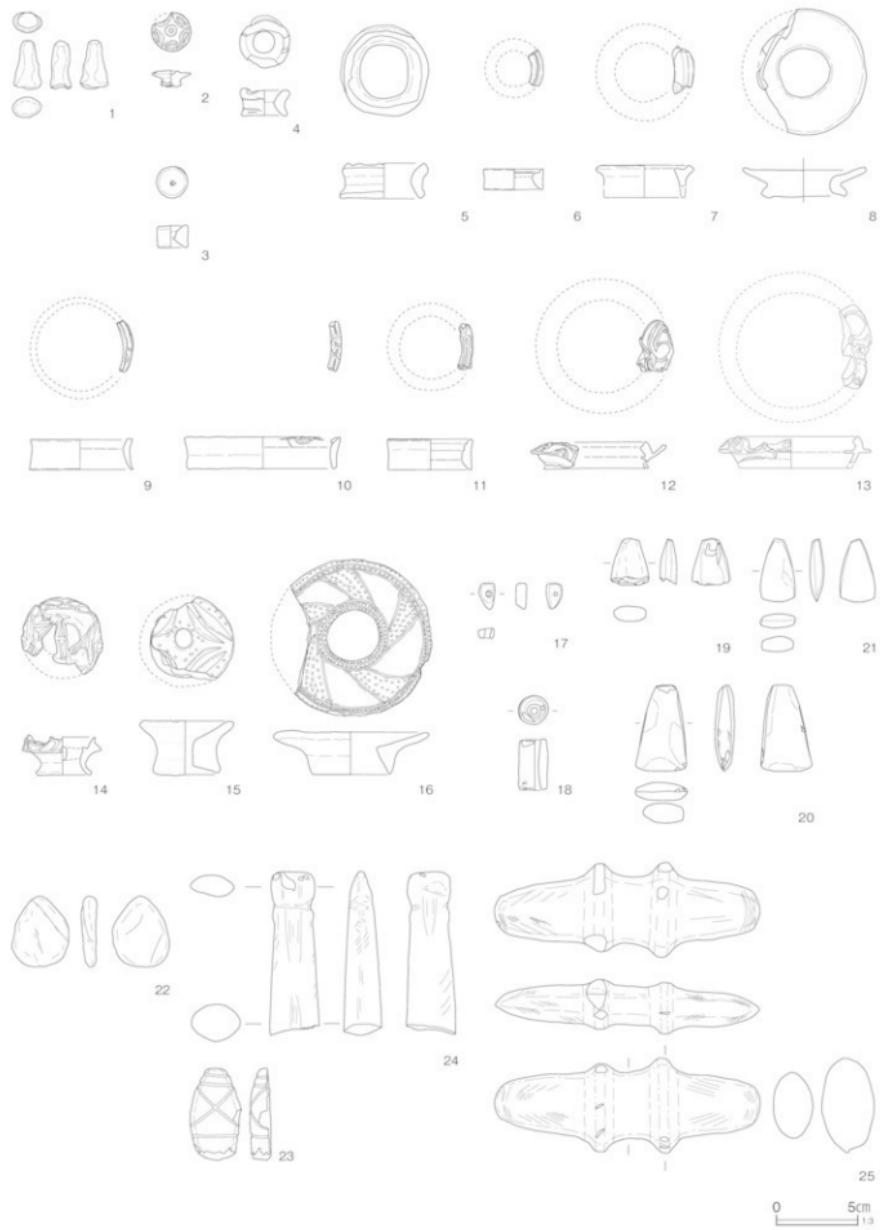
本上遺跡における空間の機能や環状盛土遺構の形成過程など、今後に残された課題は多いが、本報告をもとに他方面からの検討が行われることを願う。

主な参考文献

- 赤熊浩一、矢部瞳、上野真由美 2014年 『長竹遺跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第413集
上野真由美、渡辺清志 2005年 『雅楽谷遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第307集
村田章人、藤沼昌泰、吉岡卓真 2007年 『後谷遺跡』第4次発掘調査報告書第3分冊
柳田博之、青木義脩、駒見佳容子 2015年 『馬場小室山遺跡(第32次)』さいたま市遺跡調査会報告書第163集



第27図 遺構外出土土製品、石製品（1）



第28図 遺構外出土土製品、石製品（2）

第2表 特殊遺物（土製品）一覧 *No. 指数の番号は、上段が種別番号、下段が図版番号となる。

第3表 特殊遺物（石製品）一覧 まNo. 指標の番号は、上段が横図番号、下段が開版番号となる。

第4表 石器一覧 本石器については周氏のみの掲載となる。

写 真 図 版

図版 1



1 調査区全景（北半部、東から）



2 調査区全景（北半部、西から）

図版 2



1 調査区全景（南半部、西から）



2 第1号住居跡発掘状況（北西から）



1 第2号住居跡発掘状況（南西から）



2 第3号住居跡発掘状況（南東から）



3 第3号住居跡発掘状況（南西から）

図版 4



1 第4号住居跡完掘状況（南西から）



2 第4号住居跡完掘状況（南東から）



3 第4号住居跡炉跡覆土堆積状況
(南から)



1 第4号住居跡炉跡完掘状況（南から）



2 第4号住居跡遺物出土状況



3 第5号住居跡完掘状況（南西から）

図版 6



1 第5号住居跡炉跡 1、2
完掘状況（南から）



2 第5号住居跡炉跡 4 確認状況及び
遺物（石板）出土状況



3 第6号住居跡完掘状況（南西から）



1 第7号住居跡完掘状況（南から）



2 第7号住居跡炉跡完掘状況（北西から）



3 第1号土壤完掘状況（西から）

図版 8



1 第8号土壤完掘状況（北から）



2 第13号土壤完掘状況（北から）



3 第14号土壤完掘状況（北東から）



1 第15号土壤完掘状況（西から）



2 遺構外出土遺物（9区）



3 遺構外出土遺物（20区）

图版 10



1 遗构外出土遗物（11区）



2 遗构外出土遗物（12区）



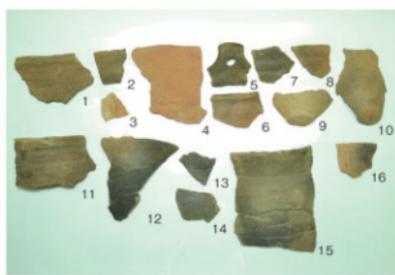
3 遗构外出土遗物（54区）



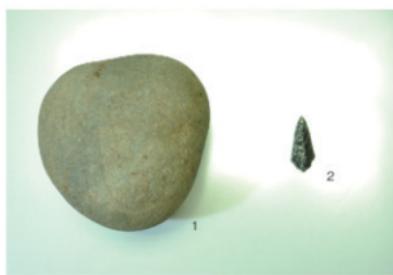
1 第1号住居跡出土土器



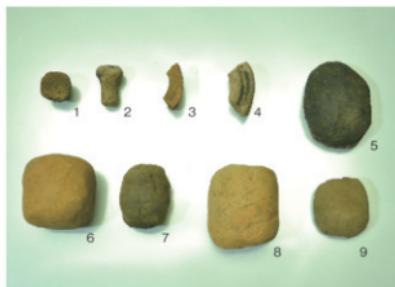
2 第1号住居跡出土石器



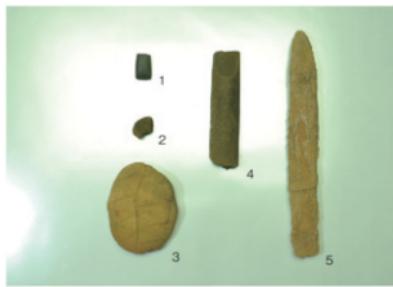
3 第3号住居跡出土土器



4 第3号住居跡出土石器



5 第3号住居跡出土土製品



6 第3号住居跡出土土製品、石製品

図版 12



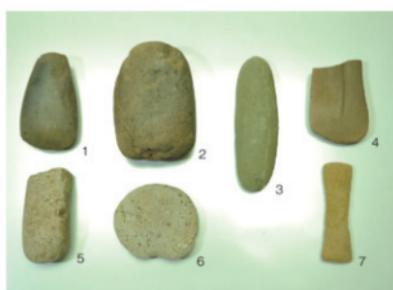
1 第3号住居跡出土骨遺存体



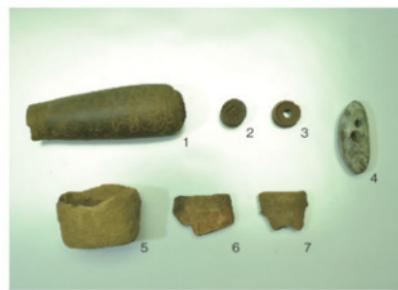
2 第4号住居跡出土土器①



3 第4号住居跡出土土器②



4 第4号住居跡出土石器



5 第4号住居跡出土土器③、土製品、石製品



6 第4号住居跡出土石製品



1 第5号住居跡出土石器



2 第5号住居跡出土土石製品



3 第5号住居跡出土石製品



4 第6号住居跡、第7号住居跡出土土器



5 第1号土壤出土土製品、第14号土壤出土石器



6 第13号土壤出土動物骨遺存体、
第14号土壤出土動物齒遺存体

図版 14



1 遺構外出土土器①



2 遺構外出土土器②



3 遺構外出土石器①



4 遺構外出土石器②



5 遺構外出土石器③



6 遺構外出土石器④



1 遺構外出土石器⑤



2 遺構外出土土製品 土偶①



3 遺構外出土土製品 土偶②



4 遺構外出土土製品 土偶③



5 遺構外出土土製品 耳飾①



6 遺構外出土土製品 耳飾②

図版 16



1 遺構外出土土製品 耳飾③



2 遺構外出土土製品 土版



3 遺構外出土土製品 ミニチュア土器



4 遺構外出土土製品 顔面装飾付土器、
パレット形土器、不明土製品、筒状土製品



5 遺構外出土石製品①



6 遺構外出土石製品②

報告書抄録

ふりがな 書名	ほんがみいせき だいにじちょうさ 本市遺跡 第2次調査								
シリーズ名	伊奈町埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第3集								
著者氏名	安達薫広 小杉秀幸								
編集機関	伊奈町教育委員会								
所在地	埼玉県北足立郡伊奈町大字小室9493番地								
発行年月日	西暦2017(平成29)年3月27日								
コード 所収遺跡	コード 所在地		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
	市町村	遺跡	市町村	遺跡					
ほんがみいせき 本市遺跡	埼玉県北足立郡 伊奈町大字本町 2丁目176番	18	28	35°59'47"	139°37'50"	20150801 ~ 20160129	240	宅地造成	
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項		
本市遺跡	集落跡	縄文時代 後期～晚期	竪穴居跡 土壙	7軒 15基		縄文土器・土偶・土版・耳飾・石器・大珠・玉・管玉・独鉛石・石剣	谷頭部斜面に立地する縄文時代中期～晚期の集落。 後期から晩期にかけて環状盛土を形成している。		

伊奈町埋蔵文化財調査報告書 第3集
本上遺跡〔第2次調査〕
埋蔵文化財調査報告

平成29年3月24日 印刷
平成29年3月27日 刊行

発行／伊奈町教育委員会
〒362-8517 埼玉県北足立郡伊奈町大字小室9493
電話 048(721)2111

印刷／株式会社エコ一宣伝印刷